

[Daily 日本史] ~史料問題に挑戦!~

【問】 2003年 津田塾大学 学芸(英文)

次の文はある古典の抜粋とその解説である(なお、設問の関係上2字を伏せて、□ □としている)。これを読んで空欄[1]~[18]にもっとも適当な語句を入れなさい。

昔、男ありけり。その男、身を用なきものに思ひなして、「京にはあらじ、東の方にすむべき国もとめに」とてゆきけり。... 三河の国 □ □といふ所にいたりぬ。... ある人のいはく、「... 旅の心をよめ」といひければ、よめる。

からころもきつつなれにしつましあればはるばるきぬるたびをしぞ思ふ

とよめりければ、みな人、かれいひの上に、涙おとして、ほとびにけり*。

*現代語訳：(乾飯が)ふやけてしまった。

これは[1]世紀に成立したと考えられる歌物語『[2]』の第9段「東下り」からの抜粋である。のちに、在五、あるいは在五中将などと呼ばれた[3]と考えられる歌人の東方への旅についての話である。彼は、他の5人の歌人とともに[4]とも称せられた。同じ時期に[5]らによって編纂された勅撰和歌集『[6]』に採られている[3]の和歌はすべてこの歌物語にある。

後世この段は多くの芸術作品に引用されてきている。室町時代、14世紀から15世紀にかけての[7]文化を代表する[8]は[9]・[10]父子が完成させたものであるが、その脚本である[11]でもこの話が用いられ、「杜若」と題されている。

江戸時代、17世紀から18世紀にかけての[12]文化の時期の京都では、[13]派の巨匠[14]はこの話の主題を『[15]』に描き、この歌が歌われた三河の地名にちなみ『[16]硯箱』も作成している。彼は、のちにこの派の手本となった『風神雷神図屏風』を描いた町衆[17]、洛北に住み陶芸・書道にも長じた工芸家[18]などの影響をうけている。

【解答】 ★★★★★ (ふつうのレベルです)

1. 10 2. 伊勢物語 3. 在原業平 4. 六歌仙 5. 紀貫之

6. 古今和歌集 7. 北山 8. 猿楽能 9. 観阿弥

10. 世阿弥 11. 謡曲 12. 元禄 13. 琳 14. 尾形光琳

15. 燕子花図屏風 16. 八橋蒔絵 17. 俵屋宗達 18. 本阿弥光悦